「男女間における暴力に関する調査」＜概要版＞

内閣府男女共同参画局

Ⅰ　調査の概要

1　調査目的

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（以下、「配偶者暴力防止法」という。）第25条では、国及び地方公共団体は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に資するため、調査研究の推進に努めるよう規定している。また、第2次男女共同参画基本計画では、女性に対する暴力について的確な施策を実施し、社会の問題意識を高めるため、定期的・継続的な実態把握の調査に努めることとしている。

これまで平成11年度、平成14年度、平成17年度に全国20歳以上の男女4,500人を対象に、無作為抽出によるアンケート調査を実施している。前回調査から3年後に当たる平成20年度には、これらの先行調査を踏まえつつ、昨今社会問題となっている新しい課題等も含め、国内の男女間における暴力の実態を把握する。

2　調査対象

（1）母集団　全国20歳以上の男女
（2）標本数　5,000人
（3）抽出法　層化二段無作為抽出法

3　調査時期

平成20年10月～11月

4　調査方法

郵送留置訪問回収法
（回収は、対象者自身が回収用封筒に記入済みの調査票を密封したものを、調査員が回収した。また、対象者本人が希望した場合には、郵送回収とした。）

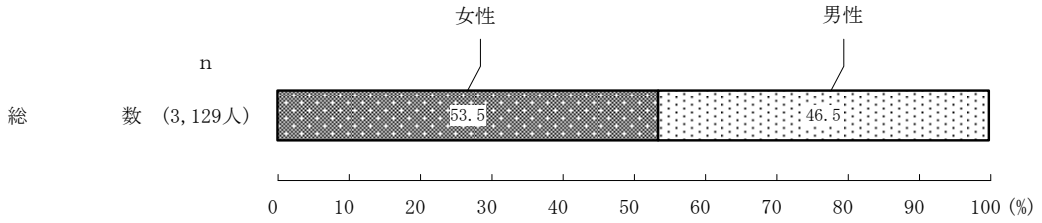
5　回収結果

（1）有効回収数（率）　3,129人（62.6%）
（内訳）　女性1,675人　男性1,454人
（2）回収不能数（率）　1,871人（37.4%）
回収不能理由内訳

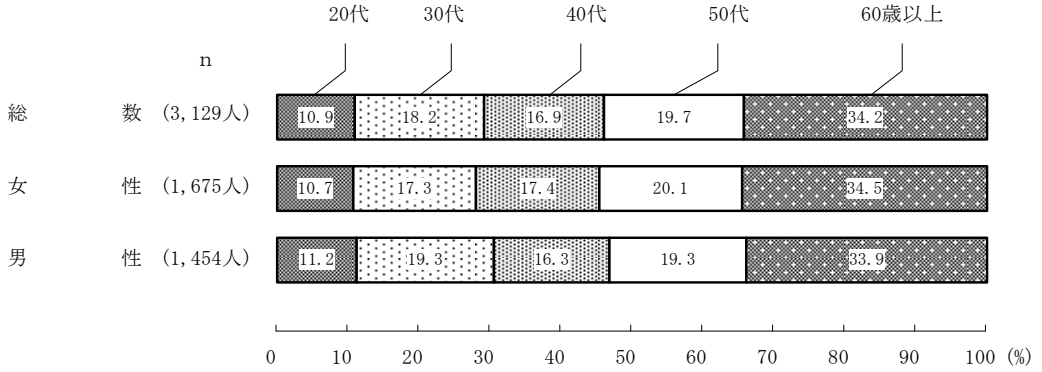
転　　居	157（ 3.1%）	調査票不達	27（0.5%）
長期不在	96（ 1.9%）	郵送依頼未回収	174（3.5%）
一時不在	390（ 7.8%）	白　票	60（1.2%）
住所不明	81（ 1.6%）	その他	226（4.5%）
拒　　否	660（13.2%）		

6　回答者の属性

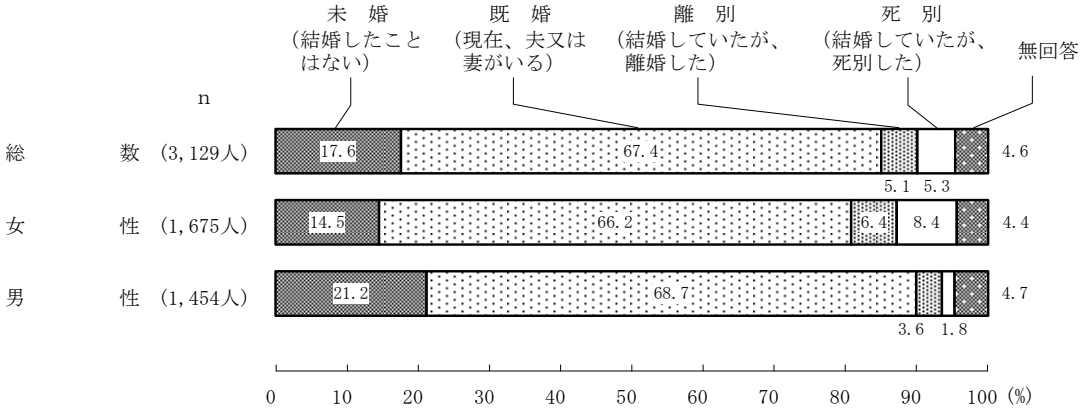
（1）性別



（2）年齢



（3）未既婚



Ⅱ　配偶者からの被害経験

1　これまでの被害経験

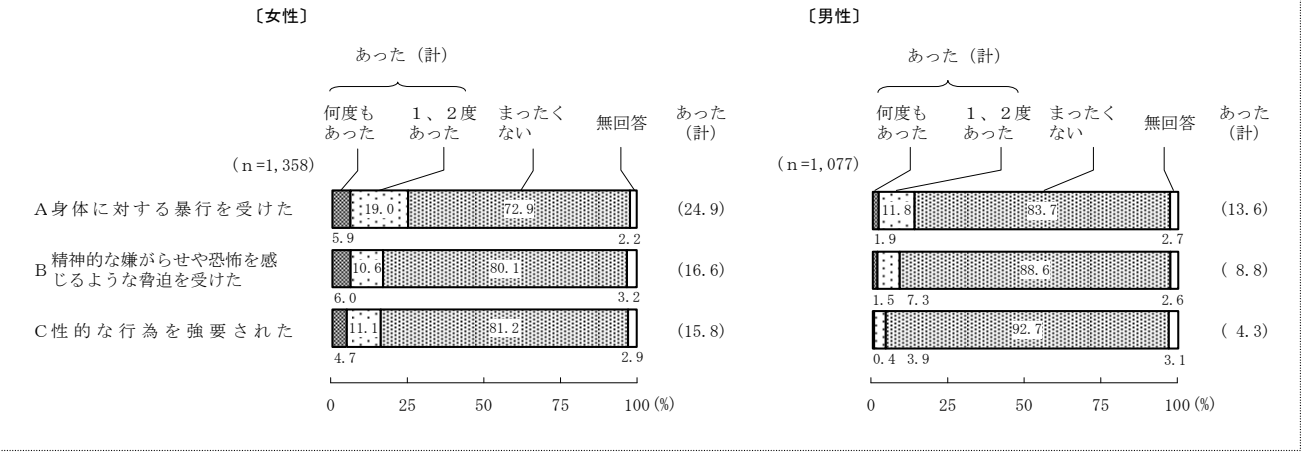
これまでに結婚したことのある人（女性 1,358 人、男性 1,077 人）に、3 つの行為をあげて、配偶者から被害を受けたことがあるかを聞いた。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含んでいる。

これまでに“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが『あった』という人は女性 24.9%、男性 13.6%となっている。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが『あった』という人は女性 16.6%、男性 8.8%となっている。

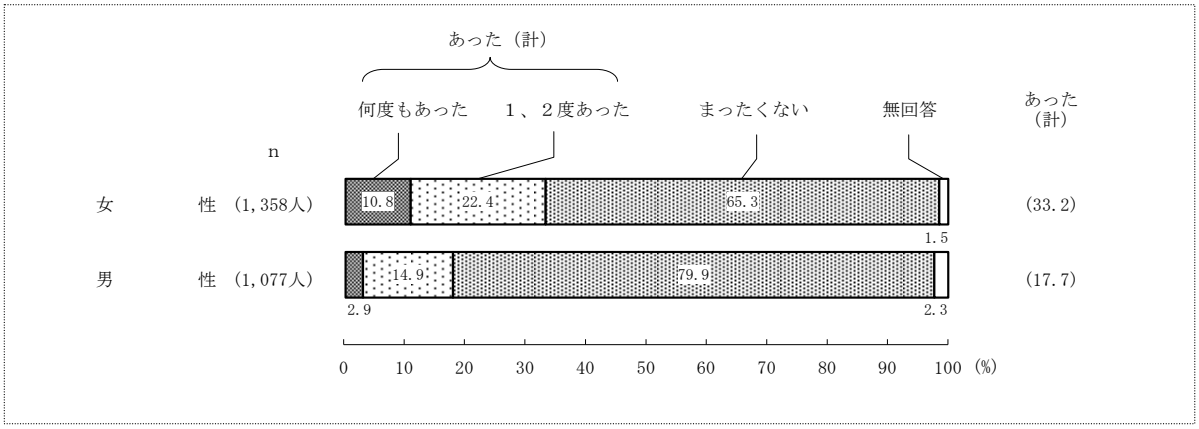
“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが『あった』という人は、女性 15.8%、男性 4.3%となっている。

図１　配偶者からの被害経験



配偶者からの被害経験をまとめてみると、“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかを 1 つでも受けたことが「何度もあった」という人は女性 10.8%、男性 2.9%となっている。

図２　配偶者からの被害経験 －「いずれかの行為を１つでも受けたことがある」

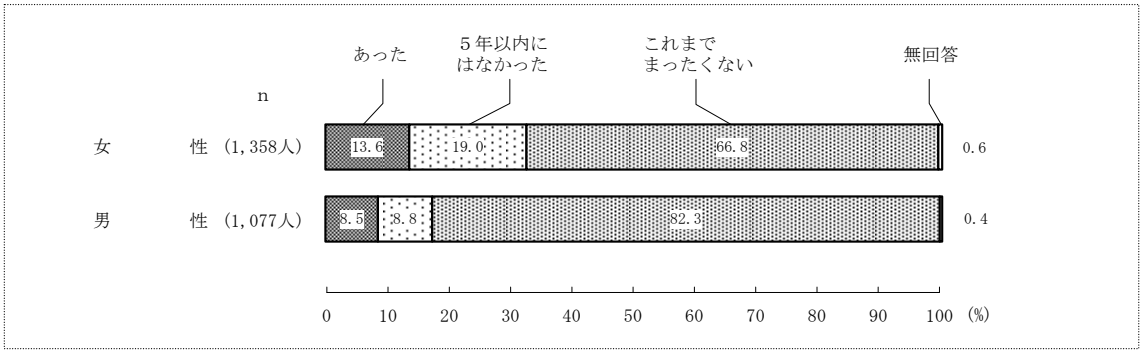


2　過去５年以内の被害経験

(1) 過去 5 年以内の被害経験

この 5 年以内に配偶者から何らかの被害を受けた経験の有無を、これまでに結婚したことのある人（女性 1,358 人、男性 1,077 人）でみると、女性では全体の 13.6%が被害を受けたことが『あった』と答えているのに対して、男性では 8.5%となっている。

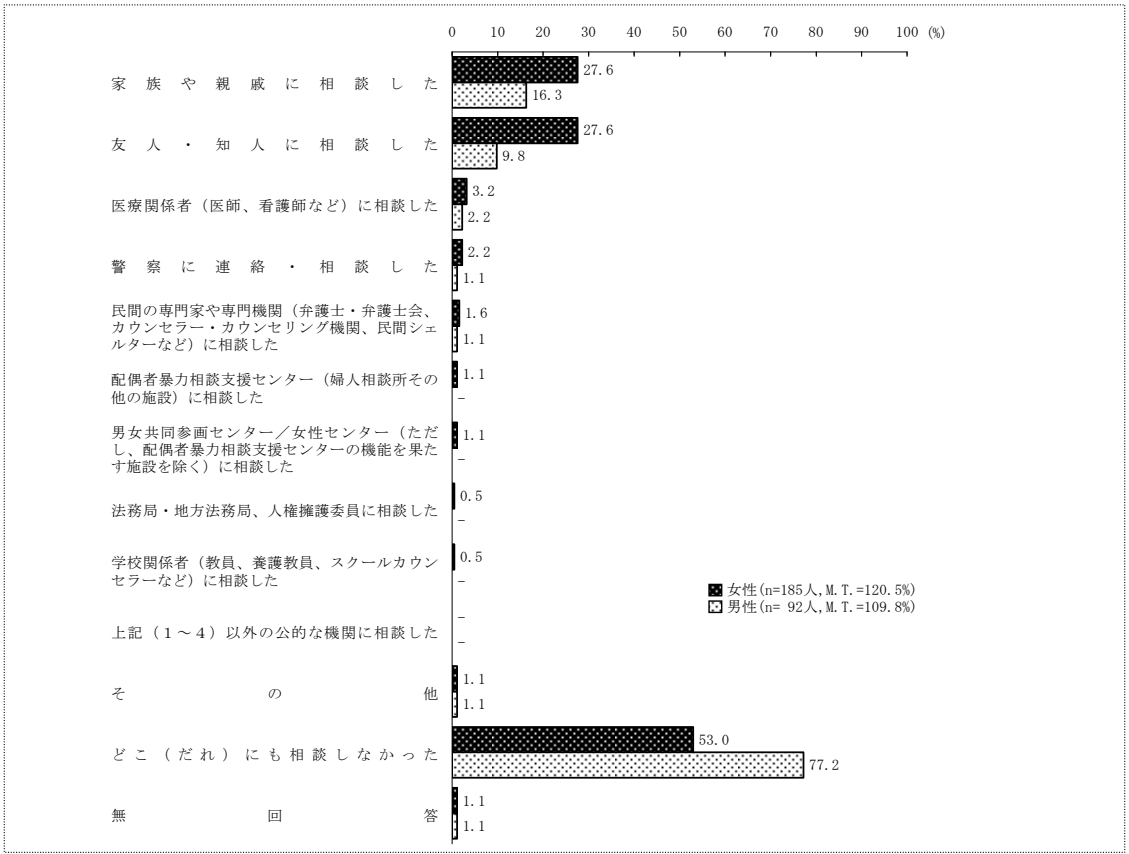
図３　配偶者からの被害経験
－ 過去５年間・「いずれかの行為を１つでも受けたことがある」（全体ベース）



(2) 配偶者からの被害の相談先

この 5 年以内に配偶者から何らかの被害を受けたことがあった人（女性 185 人、男性 92 人）に、受けた行為についての相談先を聞いたところ、「家族や親戚に相談した」（女性 27.6%、男性 16.3%）と「友人・知人に相談した」（同 27.6%、9.8%）はいずれも女性で約 3 割となっているが、男性では 1 割前後となっている。それ以外の項目はいずれも 1～3%程度となっている。

図４　配偶者からの被害の相談先

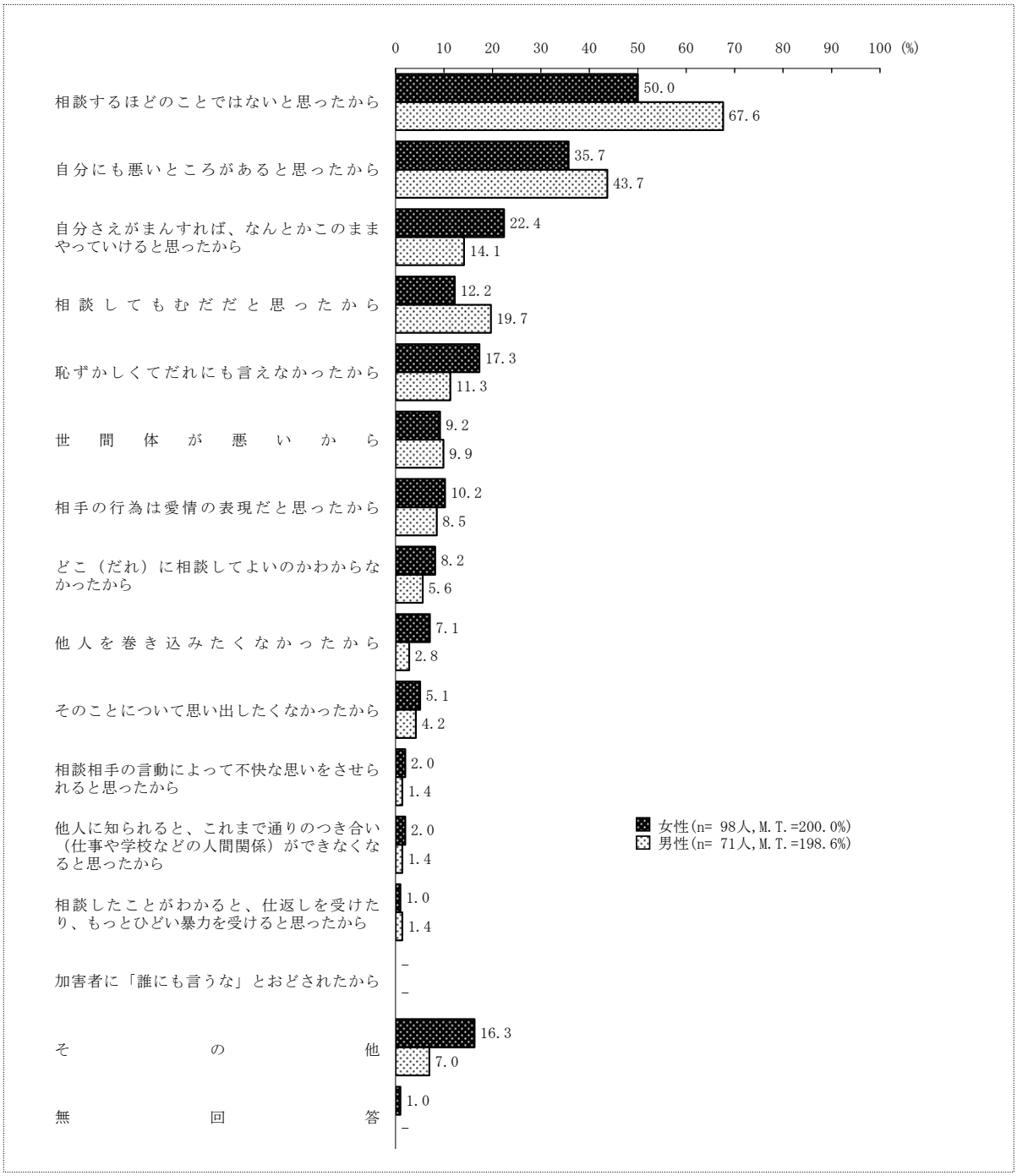


(3) 相談しなかった理由

配偶者から受けた被害について、どこ（だれ）にも相談しなかった人（女性 98 人、男性 71 人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（女性 50.0%、男性 67.6%）は、男性で約 7 割があげており、また、「自分にも悪いところがあると思ったから」（同 35.7%、43.7%）も女性より男性に多くあげられている。

一方、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（同 22.4%、14.1%）と「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（同 17.3%、11.3%）は、女性では 2 割ほどの人があげており、男性よりも多くなっている。

図５　相談しなかった理由

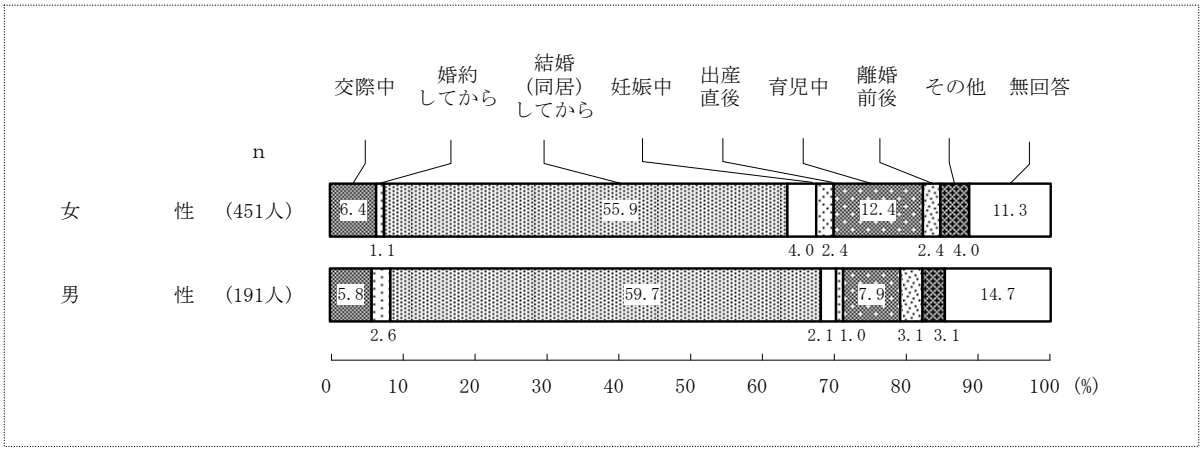


3　配偶者からの最初の被害

(1) 被害を受けた時期

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 451 人、男性 191 人）に、その行為を初めて受けた時期を聞いたところ、「結婚（同居）してから」という人が女性 55.9%、男性 59.7%と最も多く、以下、「育児中」（女性 12.4%、男性 7.9%）、「交際中」（同 6.4%、5.8%）の順となっている。また、女性の 4.0%は「妊娠中」と答えている。

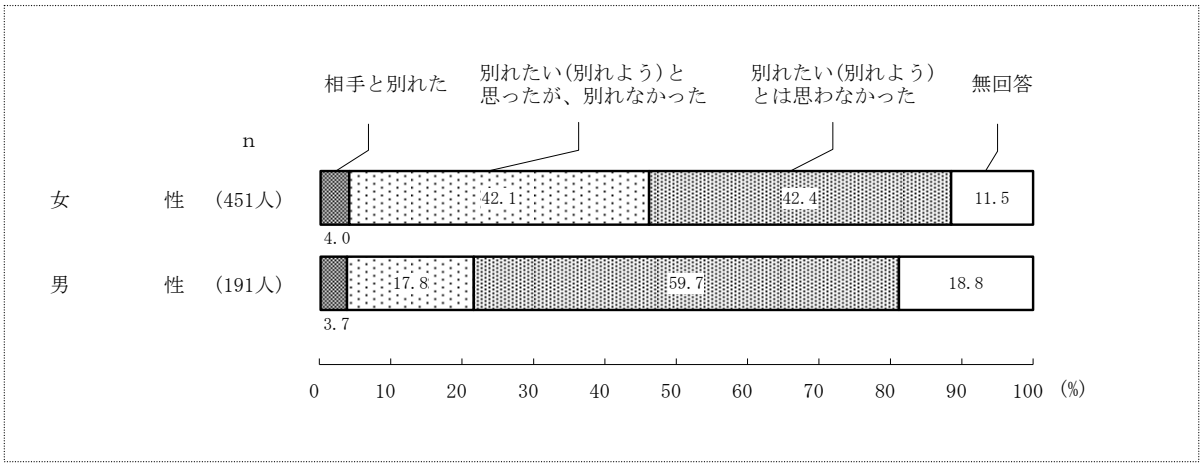
図 6　被害を受けた時期



(2) 被害を受けたときの行動

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 451 人、男性 191 人）に、その行為を初めて受けたころ、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」（女性 42.1%、男性 17.8%）という人は男性より女性に、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」（同 42.4%、59.7%）という人は女性より男性に、それぞれ多くなっている。

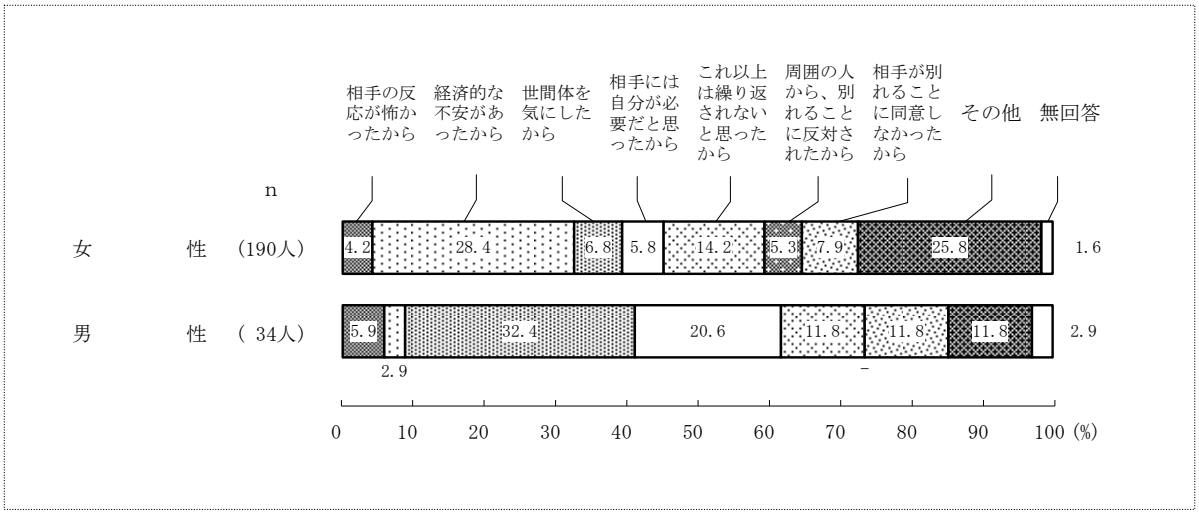
図 7　被害を受けたときの行動



(3) 配偶者と別れなかった理由

配偶者から何らかの被害を初めて受けたころ、相手と「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」という人（女性 190 人、男性 34 人）に別れなかった理由を聞いたところ、女性では「経済的な不安があったから」（28.4%）という人が約 3 割と最も多くなっているのに対して、該当数は少ないが、男性では「世間体を気にしたから」という人が 34 人中 11 人と最も多くなっている。

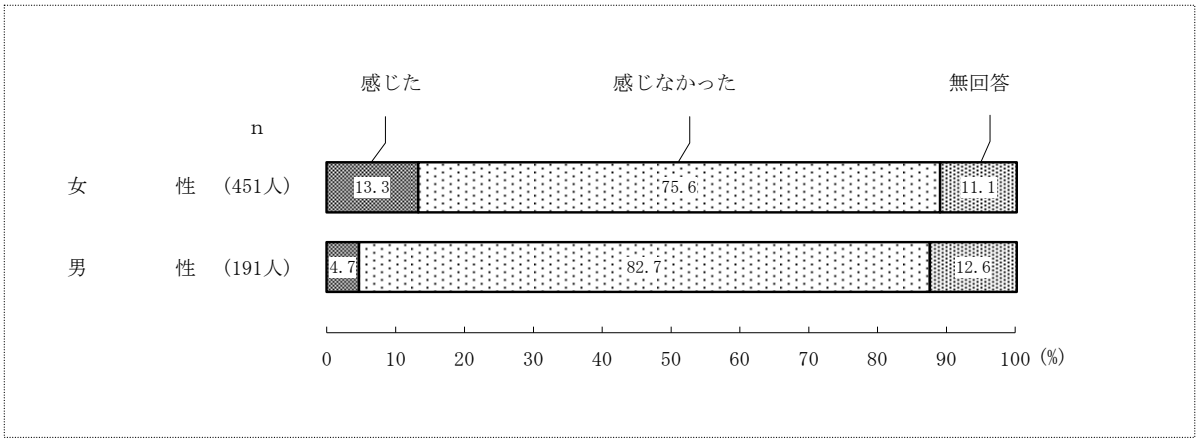
図 8　配偶者と別れなかった理由



4　命の危険を感じた経験

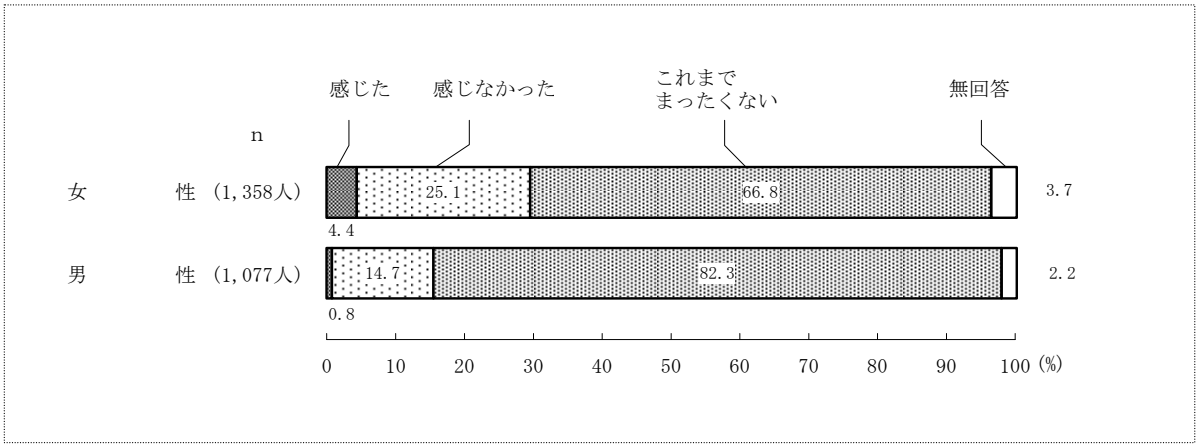
これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 451 人、男性 191 人）に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるか聞いたところ、女性の 13.3%が命の危険を「感じた」と回答しているのに対して、男性では 4.7%となっている。

図 9　命の危険を感じた経験



今までに被害を受けたことのない人も含めて、これまでに結婚したことのある人（女性 1,358 人、男性 1,077 人）でみると、命の危険を「感じた」という人は女性 4.4%、男性 0.8%となっている。

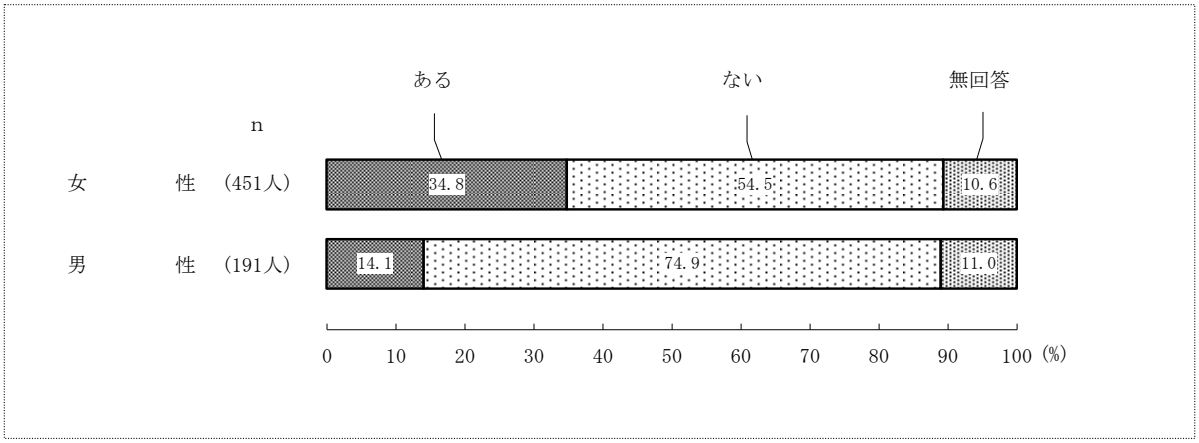
図 10　命の危険を感じた経験（全体ベース）



5　怪我や精神的不調

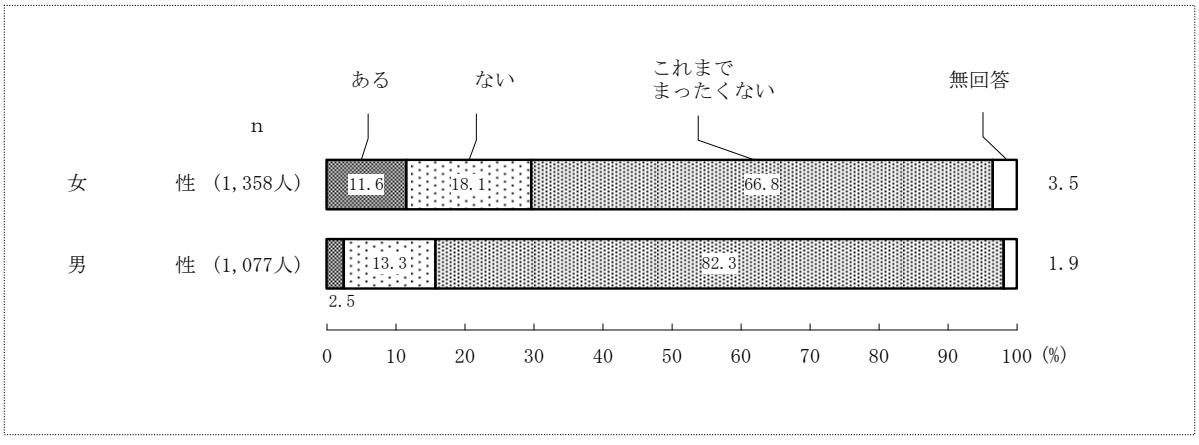
これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（女性 451 人、男性 191 人）に、その行為によって、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことがあるかを聞いたところ、女性の 34.8%が怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」と回答しているのに対して、男性では 14.1%となっている。

図 11　怪我や精神的不調



今までに被害を受けたことのない人も含めて、これまでに結婚したことのある人（女性 1,358 人、男性 1,077 人）でみると、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」という人は女性 11.6%、男性 2.5%となっている。

図 12　怪我や精神的不調（全体ベース）



Ⅲ　交際相手からの被害経験

1　交際相手からの被害経験

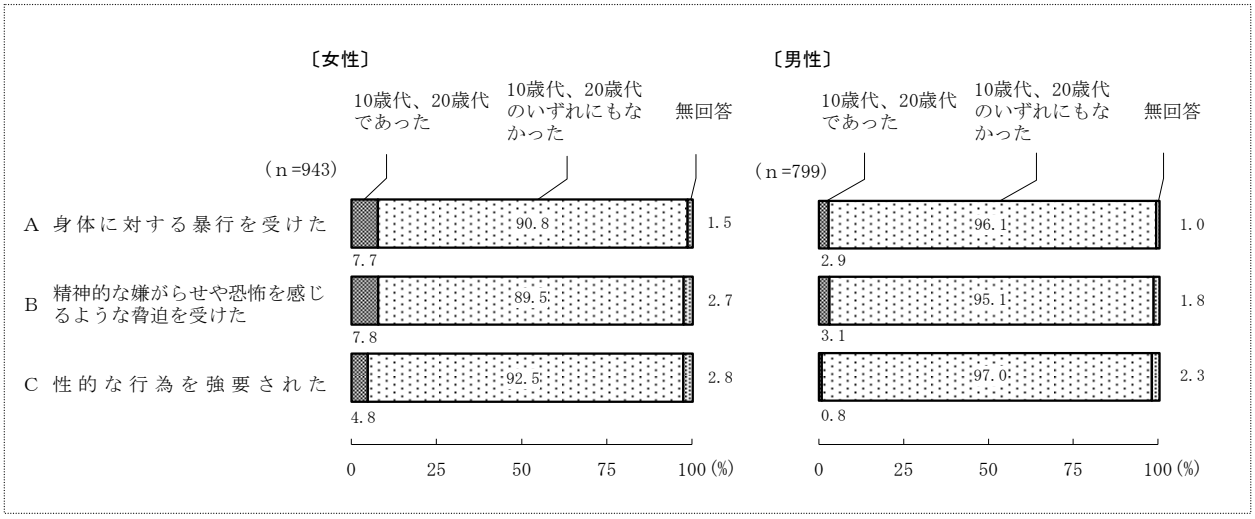
10 歳代から 20 歳代の頃に、「交際相手がいた（いる）」という人（女性 943 人、男性 799 人）に、3 つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかを聞いた。

“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが『10 歳代、20 歳代であった』という人は女性 7.7%、男性 2.9%となっている。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが『10 歳代、20 歳代であった』という人は女性 7.8%、男性 3.1%となっている。

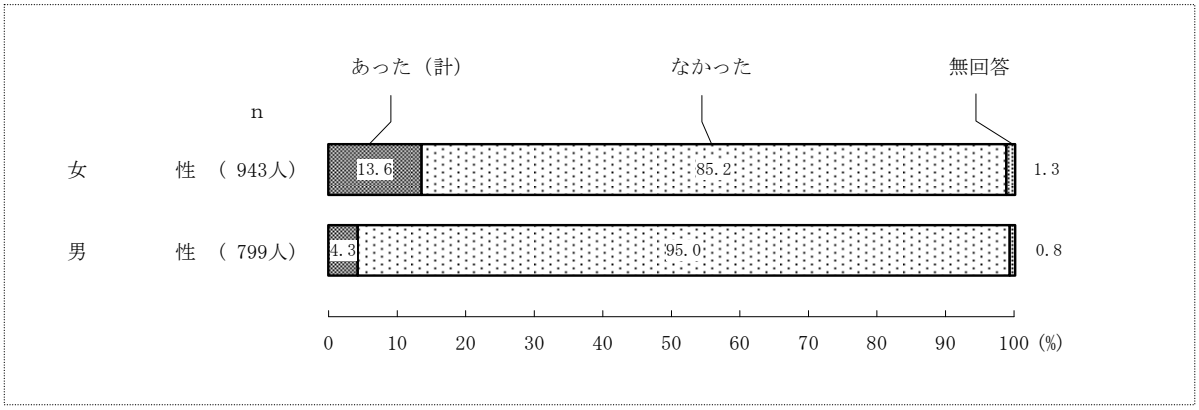
“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが『10 歳代、20 歳代であった』という人は女性 4.8%、男性 0.8%となっている。

図 13　交際相手からの被害経験



交際相手からの被害経験をまとめてみると、当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかをされたことが『あった』という人は女性 13.6%、男性 4.3%となっている。

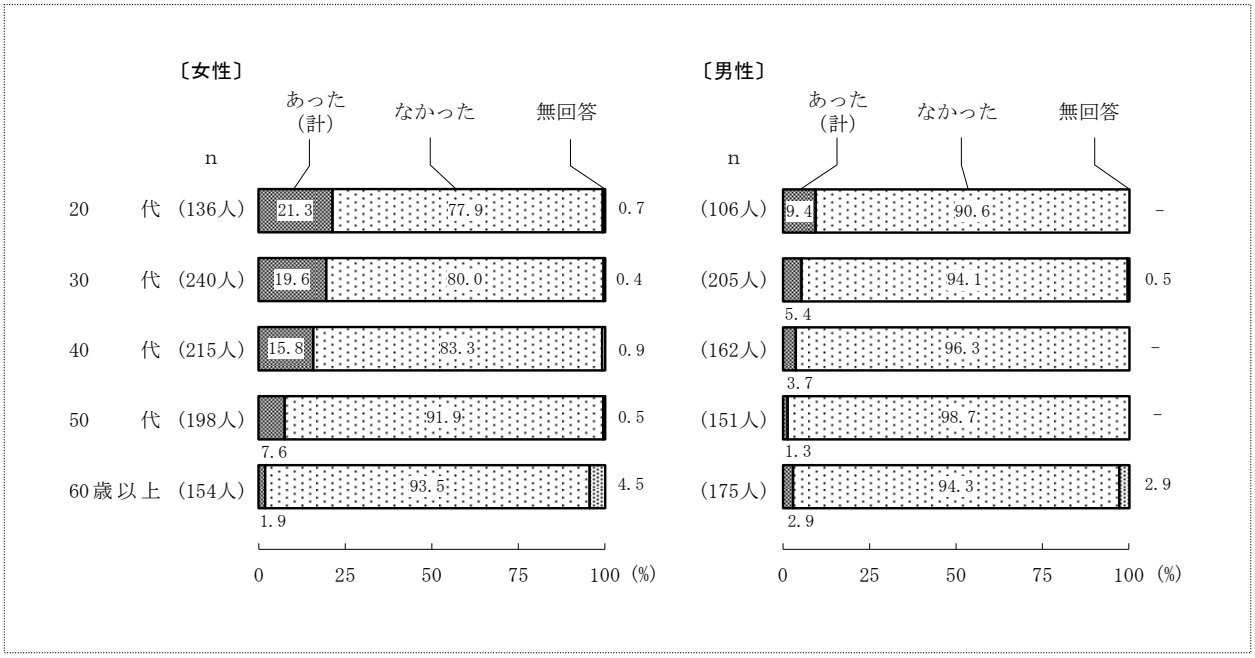
図 14　交際相手からの被害経験
－ 10 歳代、20 歳代で「いずれかの行為を 1 つでも受けたことがある」



さらに、交際相手からの被害経験を性・年齢別にみると、男女とも若年齢層ほど被害経験のある人が多い傾向にあるが、特に女性の 20 代（21.3%）から 30 代（19.6%）では約 2 割が『あった』と回答している。

図 15　交際相手からの被害経験

－ 10 歳代、20 歳代で「いずれかの行為を 1 つでも受けたことがある」（性・年齢別）



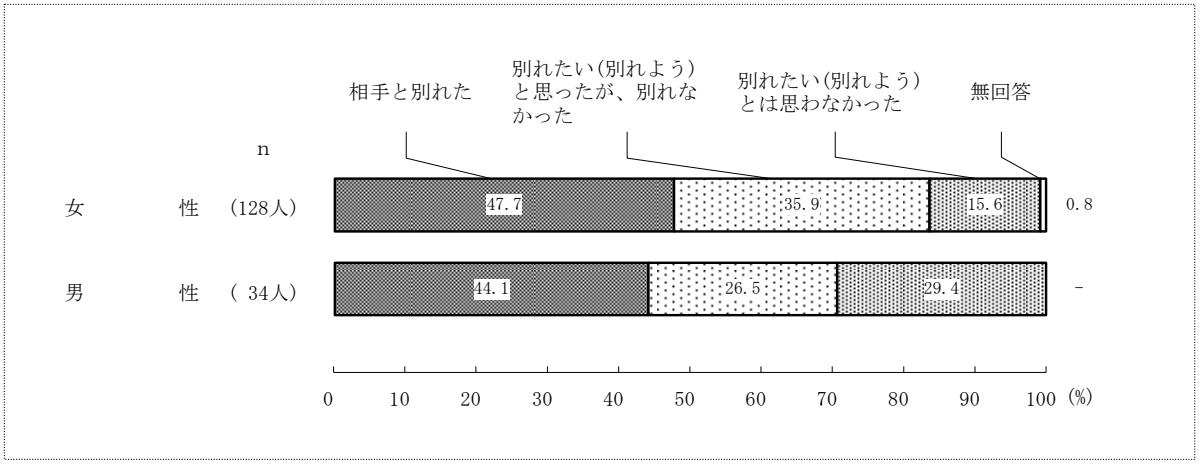
2　交際相手から被害を受けたときの行動

(1) 交際相手から被害を受けたときの行動

10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から被害を受けたことがある人（女性 128 人、男性 34 人）に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ、女性では「相手と別れた」（47.7%）という人がほぼ半数を占め、次いで「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」（35.9%）という人が多くなっている。

一方、該当数は少ないが、男性では「相手と別れた」という人が 15 人、次いで、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」という人が 10 人、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」という人が 9 人となっている。

図 16　交際相手から被害を受けたときの行動



(2) 交際相手と別れなかった理由

10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」という人（女性 46 人、男性 9 人）に別れなかった理由を聞いたところ、女性では「相手の反応が怖かったから」という人が 46 人中 10 人と最も多く、次いで「これ以上は繰り返されないと思ったから」という人が 8 人、「相手には自分が必要だと思ったから」、「相手が別れることに同意しなかったから」という人がそれぞれ 7 人となっている。

表 17　交際相手と別れなかった理由

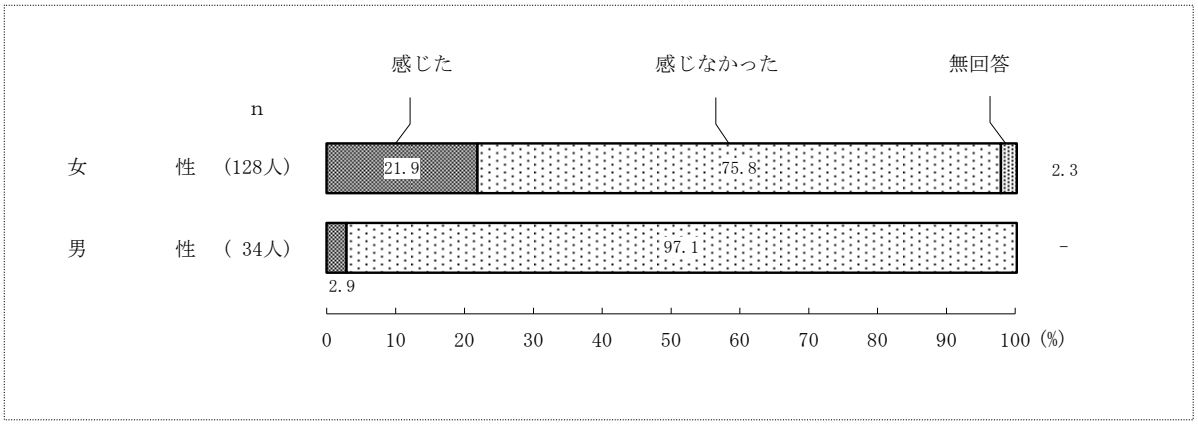
（人）

	n	相手の反応が怖かったから	これ以上は繰り返されないと思ったから	相手には自分が必要だと思ったから	相手が別れることに同意しなかったから	世間体を気にしたから	経済的な不安があったから	周囲の人から、別れることに反対されたから	その他	無回答
女　性	46	10	8	7	7	3	1	1	8	1
男　性	9	－	1	3	1	1	－	－	3	－

3　命の危険を感じた経験

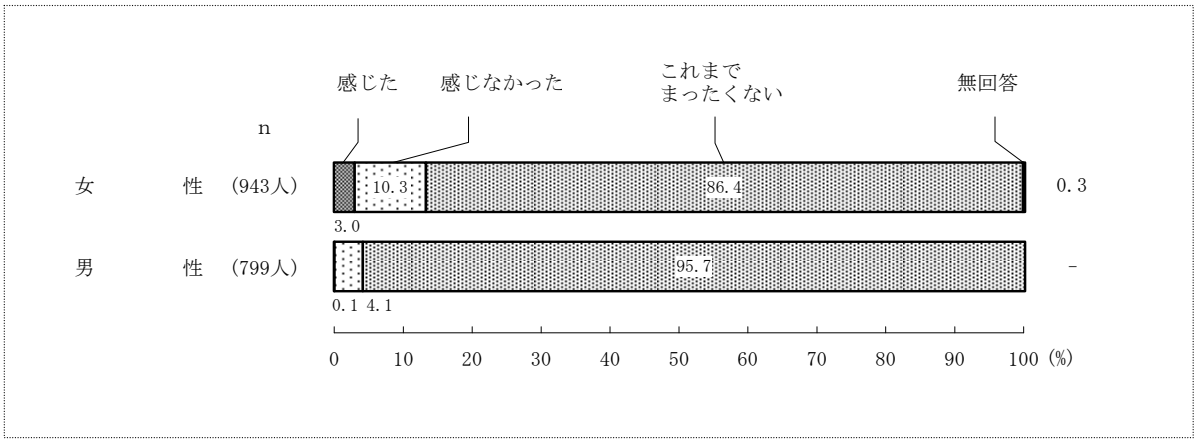
10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（女性 128 人、男性 34 人）に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、命の危険を「感じた」という人は女性で 21.9%となっている。一方、該当数は少ないが、男性は 34 人中 1 人いる。

図 18　命の危険を感じた経験



今までに被害を受けたことのない人も含めて、10 歳代から 20 歳代の頃に、「交際相手がいた（いる）」人（女性 943 人、男性 799 人）でみると、命の危険を「感じた」という人は女性 3.0%、男性 0.1%となっている。

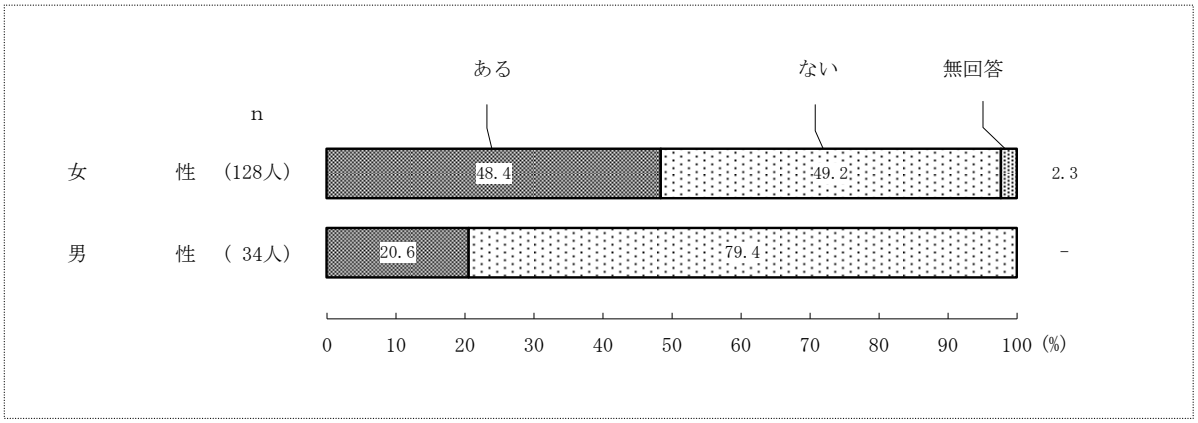
図 19　命の危険を感じた経験（全体ベース）



4　怪我や精神的不調

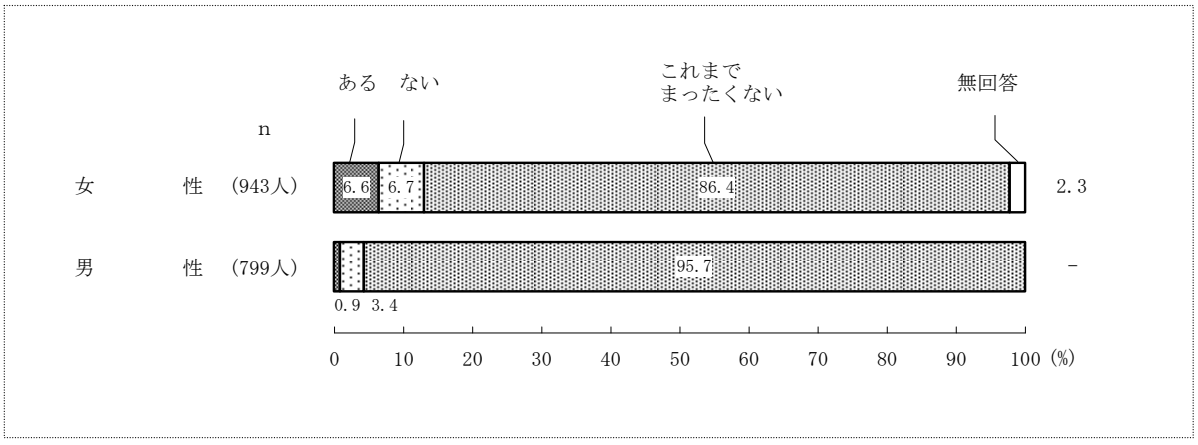
10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（女性 128 人、男性 34 人）に、その行為によって、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことがあるか聞いたところ、女性の 48.4%が怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」と回答している。一方、該当数は少ないが、男性では 34 人中 7 人となっており、女性の方がかなり多くなっている。

図 20　怪我や精神的不調



今までに被害を受けたことのない人も含めて、10 歳代から 20 歳代の頃に、「交際相手がいた（いる）」人（女性 943 人、男性 799 人）でみると、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」という人は女性 6.6%、男性 0.9%となっている。

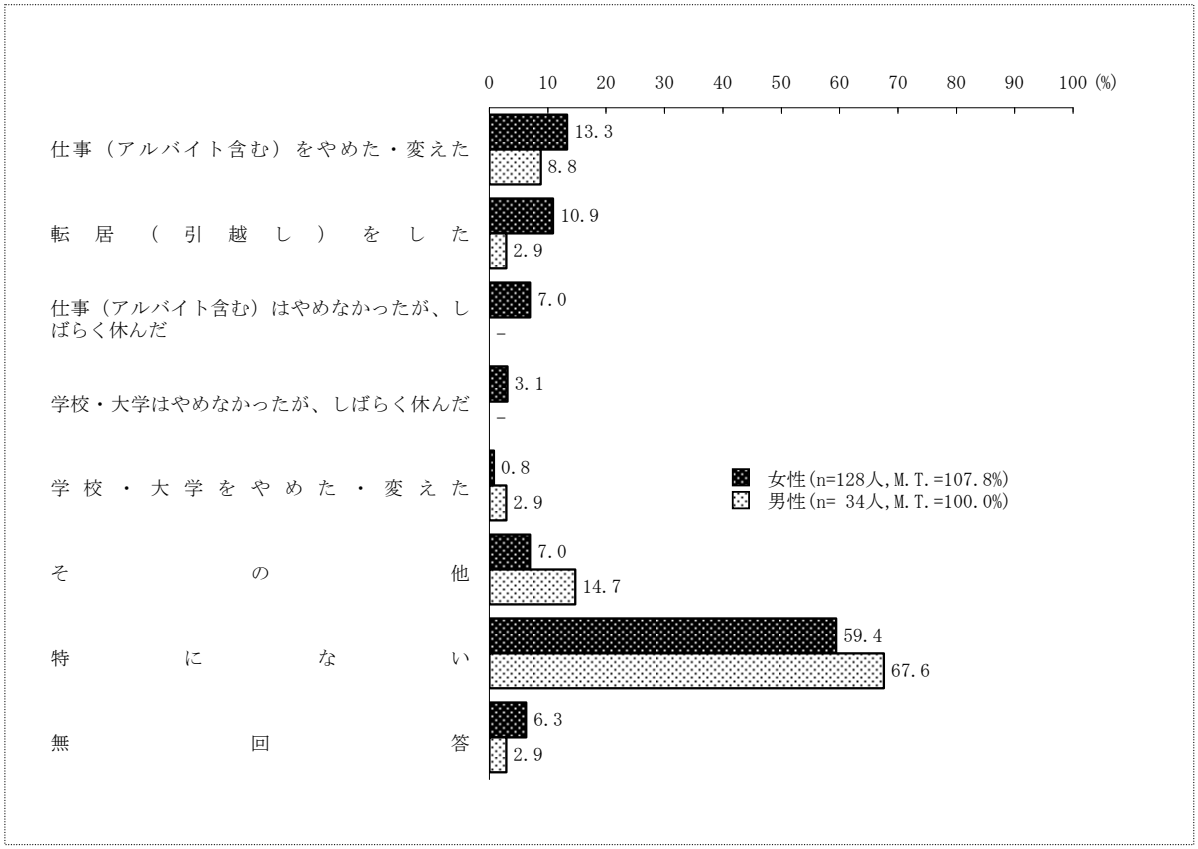
図 21　怪我や精神的不調（全体ベース）



5　生活上の変化

10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（女性 128 人、男性 34 人）に、その行為によって、生活上の変化があったかどうかを聞いたところ、女性は「仕事（アルバイト含む）をやめた・変えた」（13.3%）、「転居（引越し）をした」（10.9%）という人がそれぞれ約 1 割となっており、生活上の変化を受けることが多い。

図 22　生活上の変化

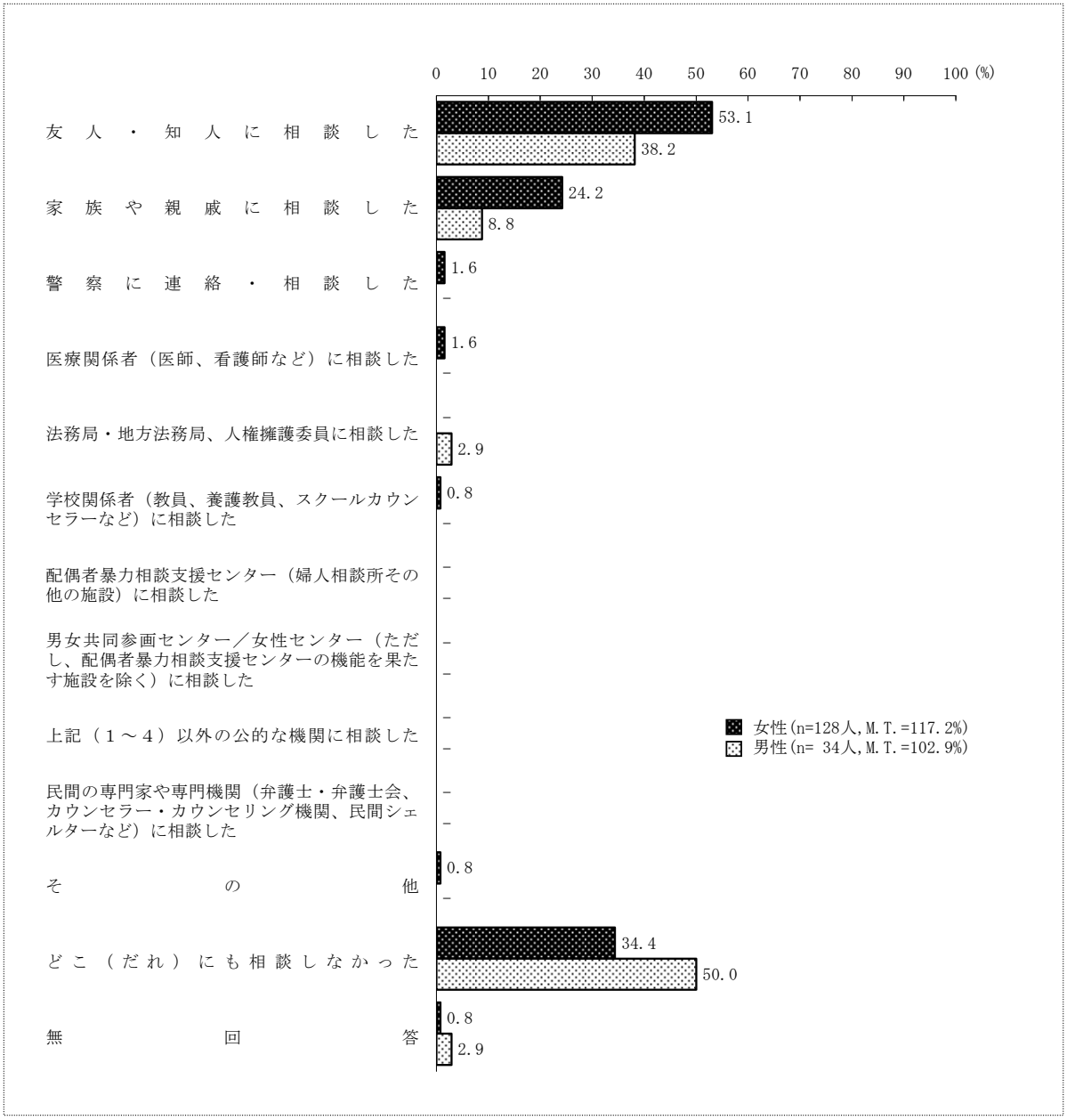


6　交際相手からの被害の相談先

(1) 交際相手からの被害の相談先

10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から被害を受けたことがある人（女性 128 人、男性 34 人）に、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞いたところ、女性では 53.1％と過半数が「友人・知人に相談した」と答えており、次いで「家族や親戚に相談した」が 24.2％となっているほかは、いずれも 1％ほどとなっている。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という女性は 34.4％で、6 割以上の女性は交際相手からの被害について相談している。

図 23　交際相手からの被害の相談先



(2) 相談しなかった理由

10 歳代から 20 歳代の頃に、交際相手から受けた被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（女性 44 人、男性 17 人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」をあげた人が 16 人と最も多く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 15 人、「相談するほどのことではないと思ったから」が 13 人、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 12 人、などとなっている。

一方、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が 12 人と最も多くなっている。

表 24　相談しなかった理由

（人）

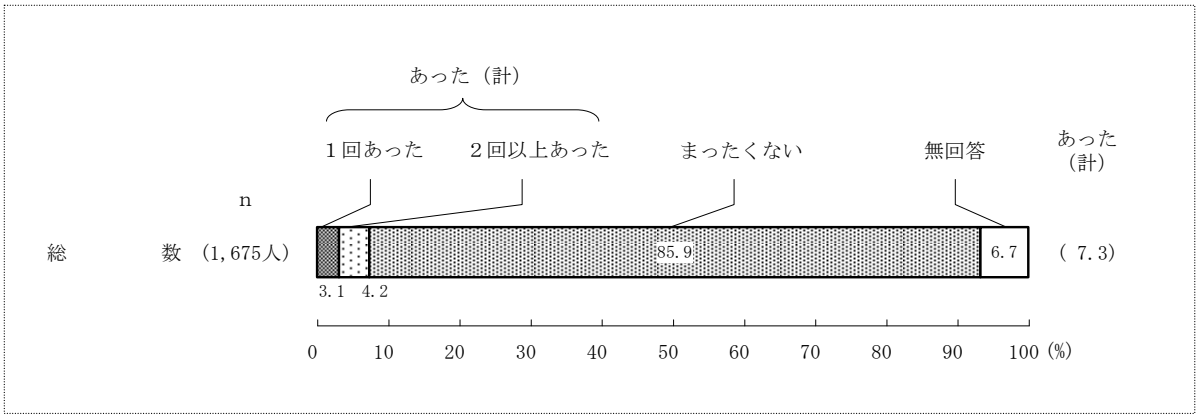
	n	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	そのことについて思い出したくなかったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	世間体が悪いから	他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	その他	回答計
女性	44	13	12	16	15	9	8	5	7	6	6	6	3	3	−	1	110
男性	17	12	8	3	2	3	2	4	1	1	−	−	1	−	−	−	37

Ⅳ　異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）

1　被害経験の有無

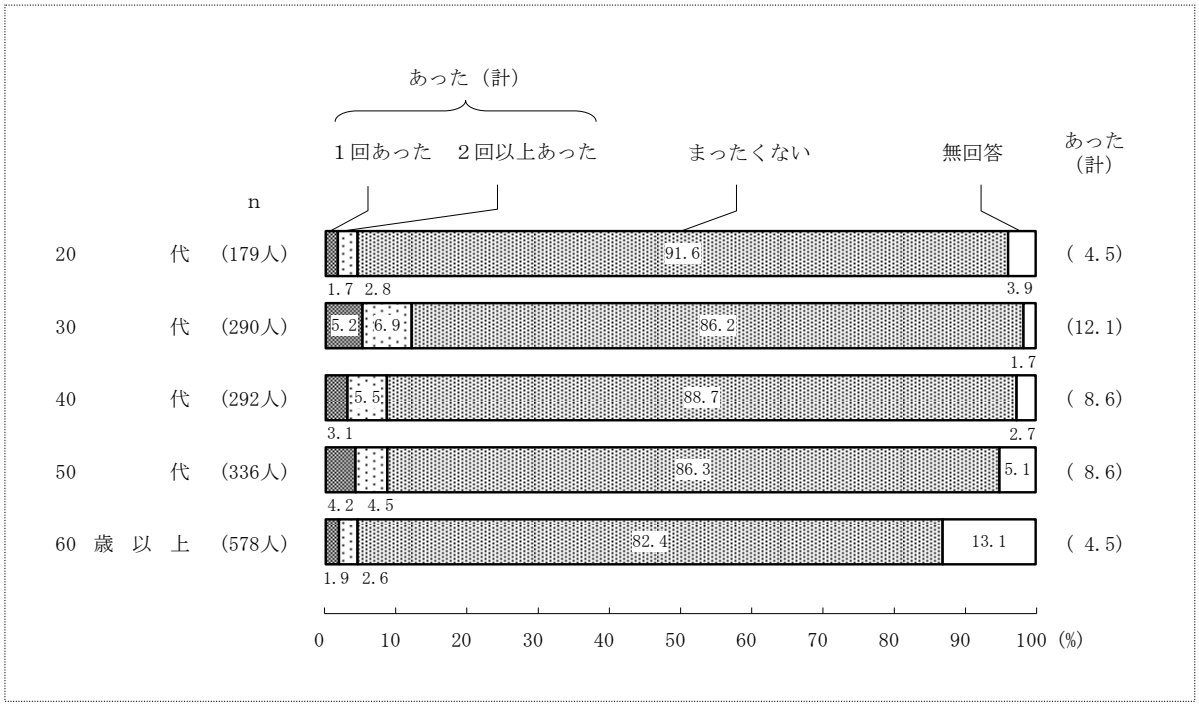
女性（1,675 人）に、これまでに異性から無理やりに性交されたことがあるかを聞いたところ、「1回あった」という人が 3.1%、「2回以上あった」という人が 4.2%で、被害経験のある人は 7.3%となっている。

図 25　被害経験の有無



年齢別にみると、異性から無理やりに性交されたことが『あった』という人は 30 代で 12.1%と最も多く、1割強となっている。

図 26　被害経験の有無（年齢別）

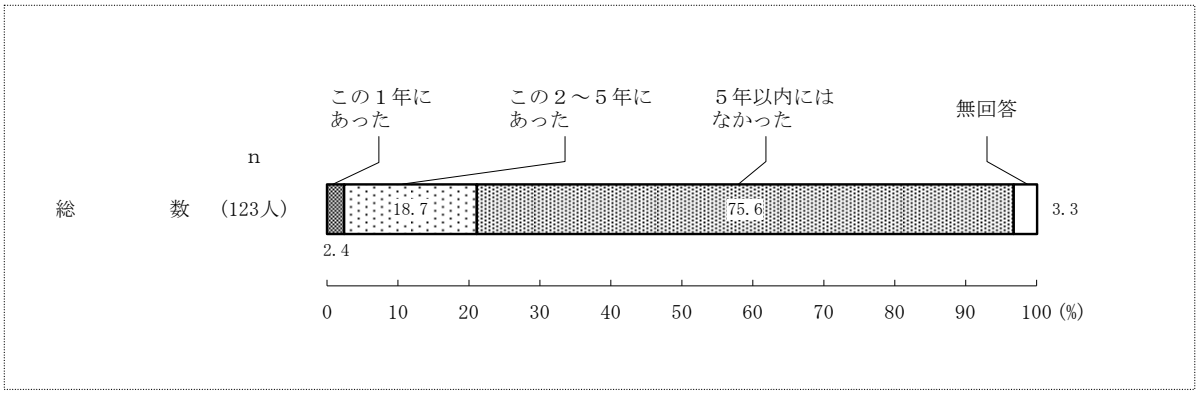


2　過去５年以内の被害経験

異性から無理やりに性交されたことがあった人（123 人）に、さらに過去 5 年以内についてはどうだったかを聞いたところ、「この 1 年にあった」という人が 2.4%、「この 2～5 年にあった」という人が 18.7%となっている。

一方、「5 年以内にはなかった」という人は 75.6%となっている。

図 27　過去５年以内の被害経験

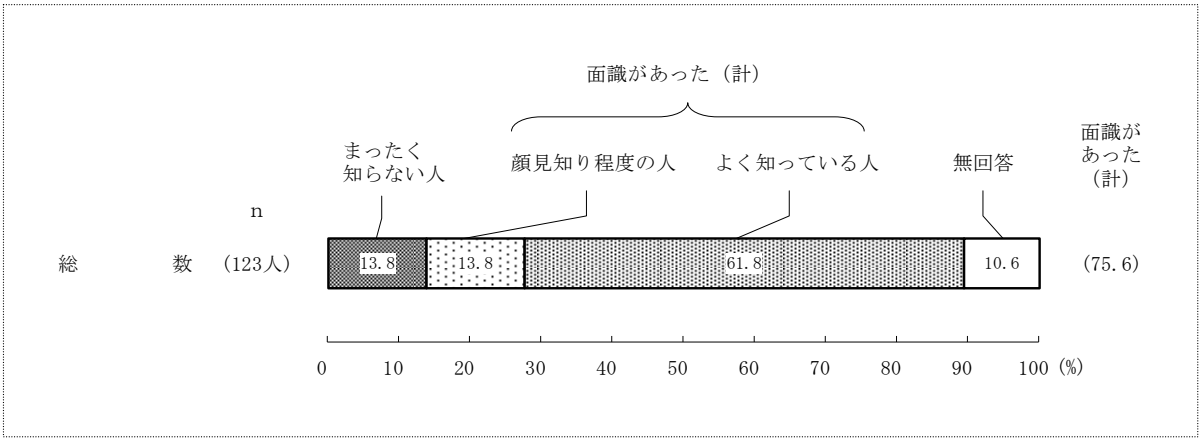


3　加害者との関係

(1) 加害者との面識

異性から無理やりに性交されたことがあった人（123 人）に、その出来事の加害者との面識の有無を聞いたところ、「よく知っている人」という人は 61.8%、「顔見知り程度の人」という人は 13.8%となっており、『面識があった』という人は 8 割近い。一方、「まったく知らない人」（13.8%）という人は 1 割強となっている。

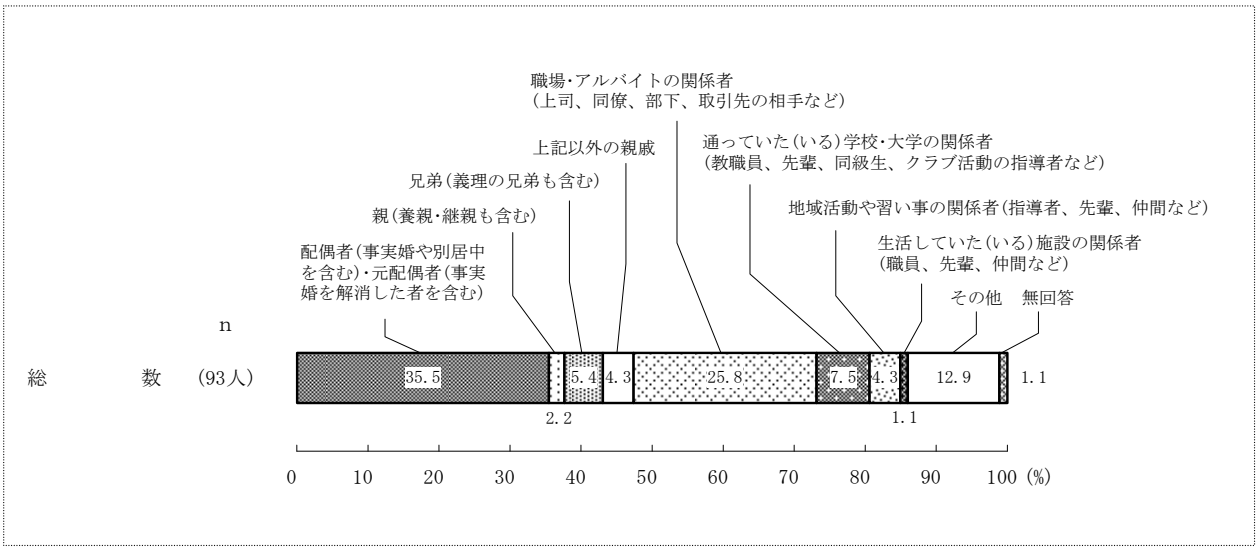
図 28　加害者との面識の有無



(2) 加害者との関係

加害者と面識があった人（93 人）に、加害者との関係を聞いたところ、「配偶者（事実婚や別居中を含む）・元配偶者（事実婚を解消した者を含む）」という人が 35.5%と最も多く、次いで「職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）」（25.8%）、などとなっている。

図 29　加害者との関係

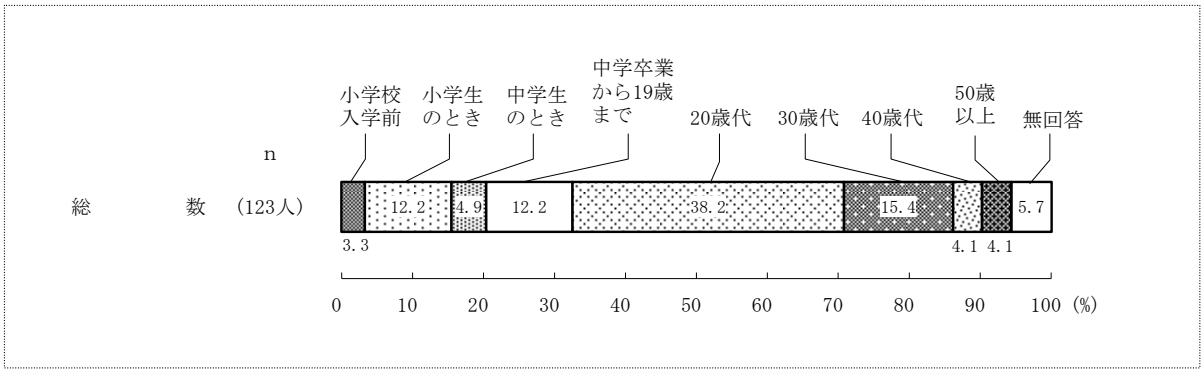


4　被害にあった時期

異性から無理やりに性交されたことがあった人（123 人）に、その被害にあった時期を聞いたところ、「20 歳代」という人が 38.2%と最も多く、次いで「30 歳代」（15.4%）、などとなっている。

また、「小学生のとき」（12.2%）、「中学生のとき」（4.9%）、「小学校入学前」（3.3%）など低年齢で被害を受けたという人も 2 割ほどいる。

図 30　被害にあった時期



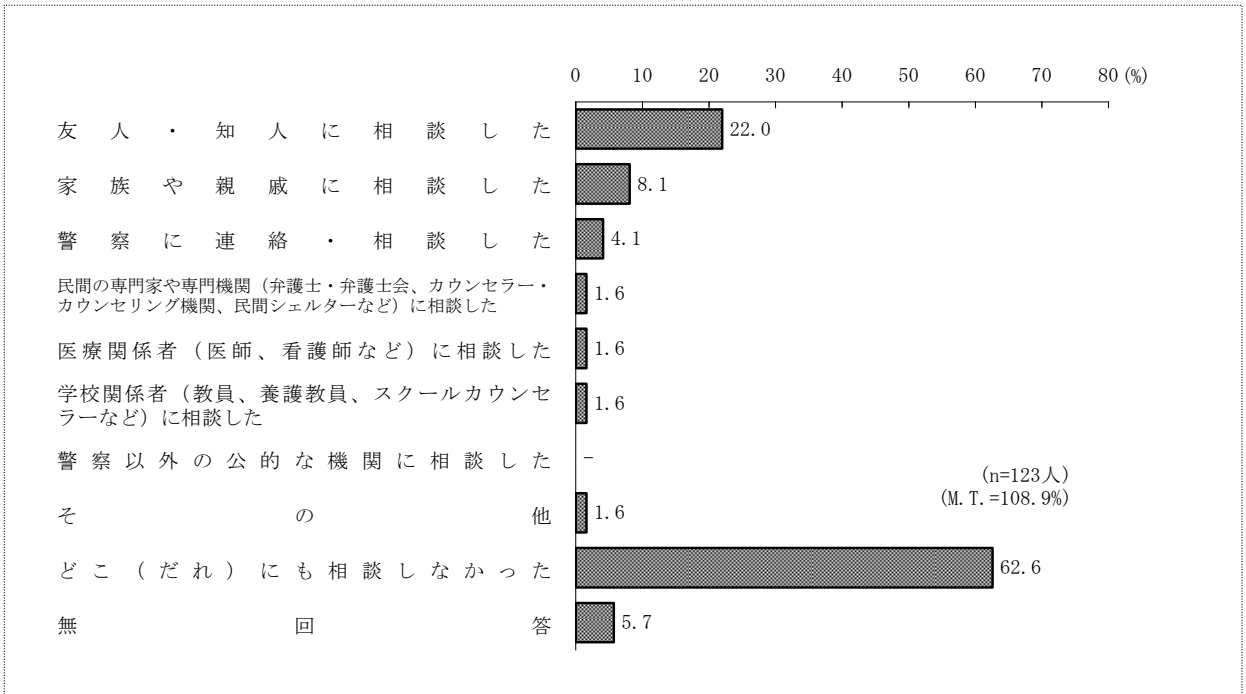
5　被害の相談先

(1) 被害の相談先

異性から無理やりに性交されたことがあった人（123 人）に、その被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞いたところ、「友人・知人に相談した」が 22.0%と最も多くあげられ、次いで「家族や親戚に相談した」（8.1%）が 1 割弱となっている。

これに対して、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（62.6%）という人は 6 割を上回っている。

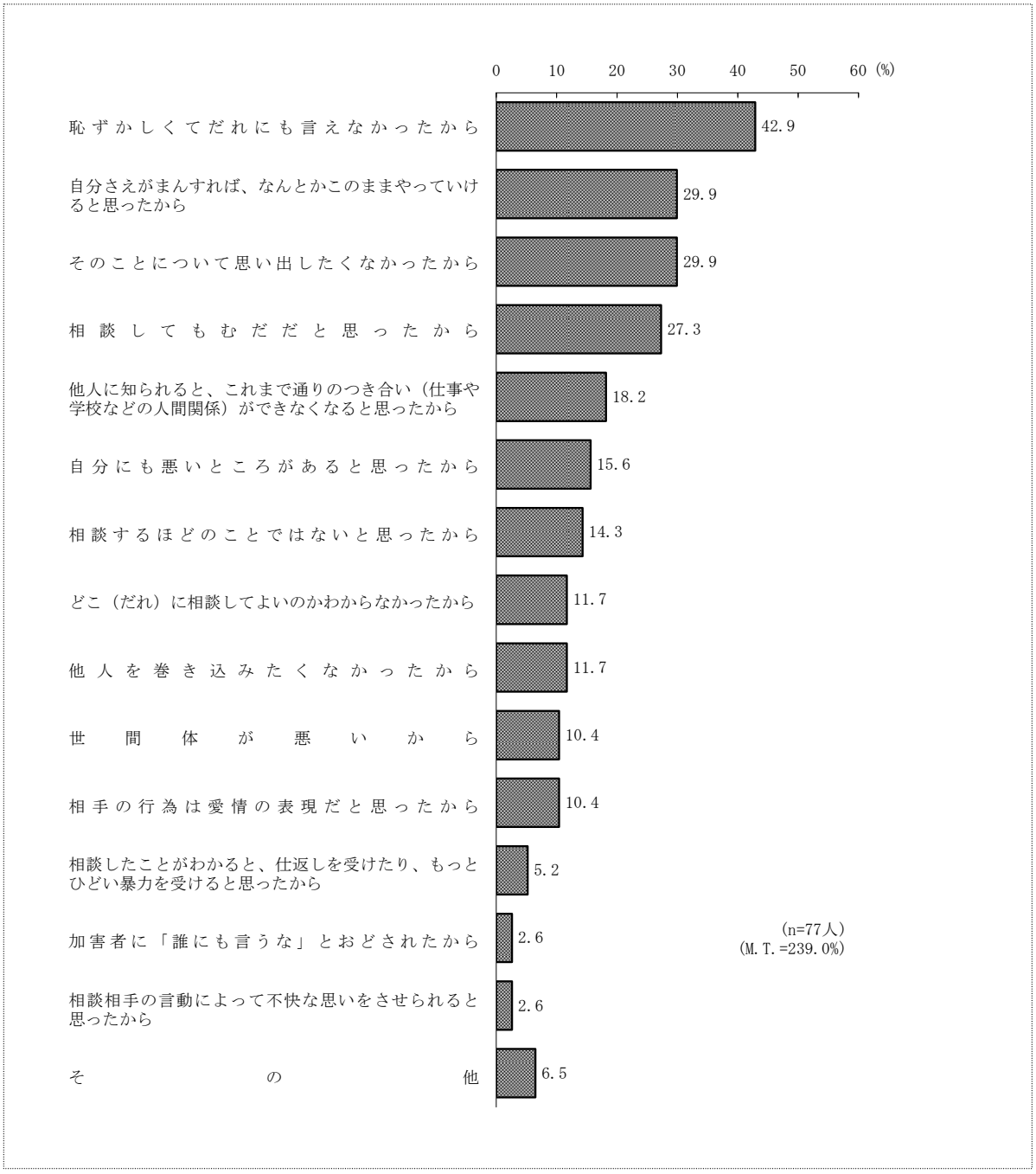
図 31　被害の相談先



(2) 相談しなかった理由

異性から無理やりに性交された被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（77人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 42.9%と最も多くあげられ、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（29.9%）、「そのことについて思い出したくなかったから」（29.9%）、「相談してもむだだと思ったから」（27.3%）、などとなっている。

図 32　相談しなかった理由



Ⅴ　男女間の暴力を防止するために必要なこと

男女間における暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が約7割と多くあげられ、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」、などとなっている。

男性より女性に多いものをポイント数の差の多い順にあげると、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（女性48.8%、男性41.9%）、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（同 71.3%、65.0%）、「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」（同50.7%、46.4%）となっている。

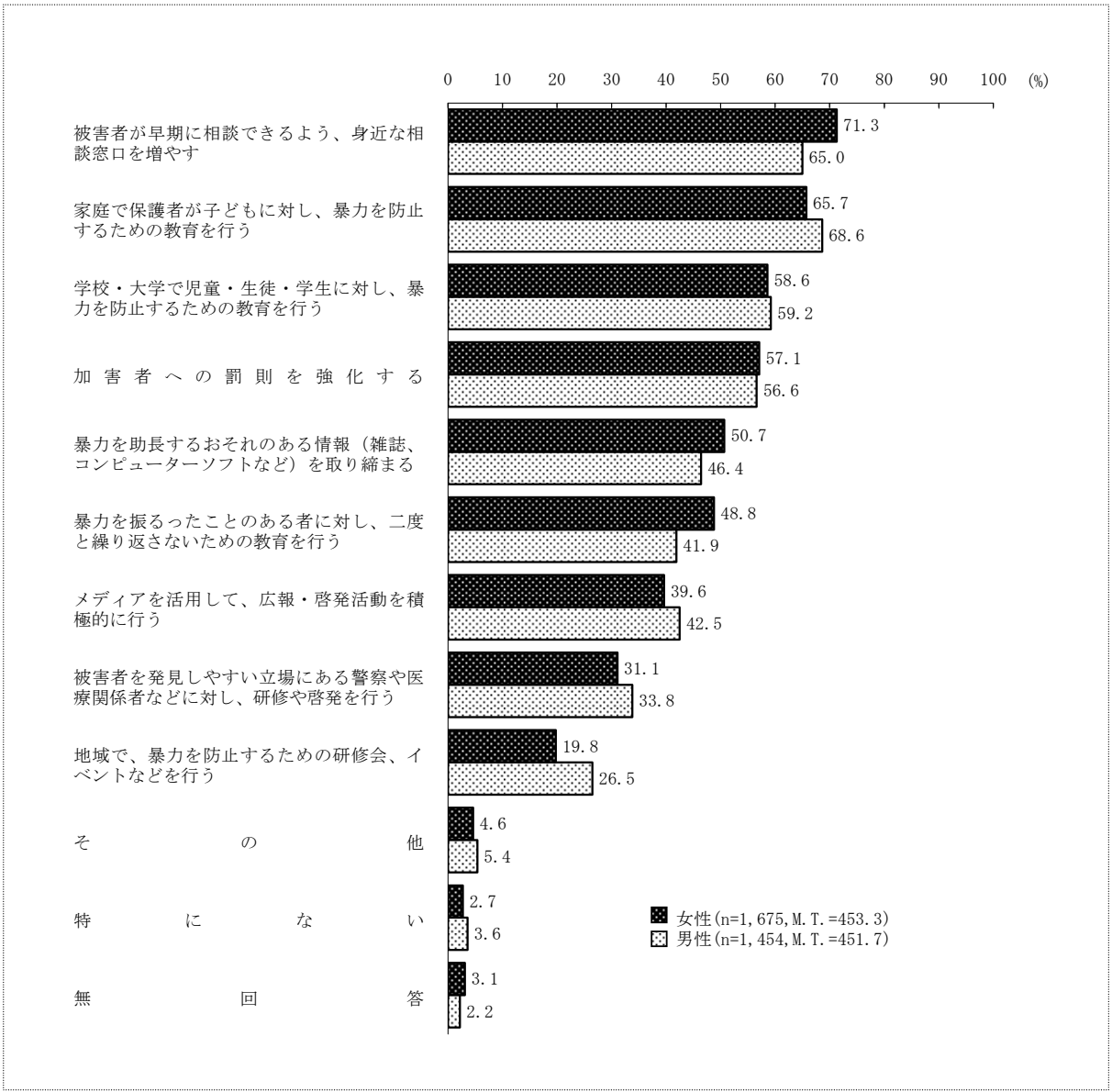



図33　男女間における暴力を防止するために必要なこと